

### 1. 実況上の着目点

- ① 日本のはるか東の低気圧周辺を波源とするうねりのピークは過ぎたが、北・東日本の太平洋側の海上は引き続き波が高い。
- ② 500hPa 5280m付近でまとまりつつある寒冷渦に対応し低気圧が発達しながら日本海を東北東進。寒冷前線が東日本を通過中。深いトラフと下層暖湿気の影響で本州南岸を発雷・突風危険域が東進。前線後ろ側の西日本～南西諸島では強風を観測。

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気・正渦度の影響で、北～西日本では8日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意。東日本太平洋沿岸では目先朝まで、竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の低気圧は7日日中、渡島半島付近に進んで不明瞭となるが、7日朝には三陸沖の閉塞点上に発生する低気圧が北北東進し、夜にはオホーツク海へ進む。その後8日には、1項②の寒冷渦の直下となって動きが遅くなる。また、低気圧や前線の後ろ側では大陸東岸から高気圧が張り出し、8日にかけて850hPaで-9℃以下の寒気が流入して、北～東日本日本海側を中心に大雪となる所がある。北海道地方では7～8日は大雪による交通障害に注意・警戒し、北・東日本では大雪や着雪に注意。
- ③ 9日は、2項②の低気圧は衰弱しながらサハリン付近をゆっくり北上し、北～西日本の風は次第に弱まるが、湿った西風の影響で北・東日本日本海側では降雪が続く所がある。上層トラフの接近に伴い、日本海西部と関東沖に気圧の谷が顕在化し、周辺の西日本日本海側や東日本太平洋側では曇りや雨の所がある。落雷や突風にも注意。また、高気圧が東シナ海周辺に張り出し、南西諸島では再び風が強まり、波が高くなる所がある。
- ④ 7日は気温上昇や降雨によって雪解けが進む所がある。その後11日頃にかけて850hPaでは全国的に気温が平年より低くなるが、融雪期でありなだれの危険性は急には低下しない。また、降雪がまとまる地域では新雪なだれの危険性が高まる。北～西日本の多雪地では9日にかけて、なだれや融雪に注意。
- ⑤ 2項②の低気圧や前線、2項②や③の高気圧の張り出しの影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなり大しけとなる所がある。7日は、東北地方では暴風や高波に警戒、北陸地方では高波に警戒。北海道地方では8日にかけて暴風雪や暴風に警戒。北日本と南西諸島では9日にかけて、東・西日本では8日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：北海道50、東北30cm。
- ③ 波浪(明日まで)：東北・北陸6、北海道5、関東・伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。

### 5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図